



クラウドコンピューティング環境における セキュリティの課題

2010年 2月20日

(株)NTTデータ 技術開発本部
SIアーキテクチャ開発センター

木原 洋一



クラウドシステム間の連携インタフェースやネットワークプロトコルの標準化を推進

<http://www.gictf.jp/> **会員募集中**

 **グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム**
Global Inter-Cloud Technology Forum

[ENGLISH](#)

お問い合わせ

参加申し込み

HOME

最新情報

設立趣意書

設立背景

規約

会員

組織図

発起人

部会設置要綱

活動計画

活動

技術部会活動

応用部会活動

参加申し込み


お問い合わせ

リンク

グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム

クラウドシステム間の連携インタフェースやネットワークプロトコル(通信方式)の標準化を推進し、より信頼性の高いクラウドサービスの実現等を目指します。

最新情報

- 2009.11.27 「総務省の予算事業等に関する意見募集」に対してGICTF事務局から意見を提出しました
- 2009.11.20 「科学技術関係施策の優先度判定等の実施に関する意見募集」に対してGICTF事務局から意見を提出しました
- 2009.09.07 グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム 幹事会において部会の設置が議決されました(参考資料 )
- 2009.07.17 グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム 設立総会を開催しました
- 2009.07.07 グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム 設立総会の開催について
- 2009.07.07 グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム 公式サイトがオープンしました



「中間取りまとめ(案)ースマートクラウド戦略ー」 パブコメ募集中

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02ryutsu02_000023.html

[総務省トップ](#) > [広報・報道](#) > [報道資料一覧](#) > 「スマート・クラウド研究会中間取りまとめ(案)ースマート・クラウド戦略ー」に対する意見の募集

報道資料

平成22年2月10日

「スマート・クラウド研究会中間取りまとめ(案)ースマート・クラウド戦略ー」に対する意見の募集

総務省は、総務副大臣が主宰する「スマート・クラウド研究会」(座長:宮原秀夫 大阪大学名誉教授)における検討の「中間取りまとめ(案)ースマート・クラウド戦略ー」について、平成22年2月10日(水)から同年3月9日(火)までの間、意見を募集します。

1 経緯

総務省では、クラウド技術の発達を踏まえた様々な課題について包括的に検討するとともに、次世代のクラウド技術の方向性を明らかにすることを目的として、平成21年7月29日から「スマート・クラウド研究会」を開催してきたところです(本研究会の構成員は別紙1、同開催状況は別紙2のとおりです。)

つきましては、本研究会における「中間取りまとめ(案)ースマート・クラウド戦略ー」(別紙3)について、以下の要領で意見を募集します。

2 意見募集要領

意見募集対象: 「スマート・クラウド研究会中間取りまとめ(案)ースマート・クラウド戦略ー」(別紙3)
参考資料(別紙4)
意見募集締切り: 平成22年3月9日(火)17:00(必着)
(郵送の場合は、平成22年3月9日(火)必着。)

詳細は意見募集要領(別紙5)を御覧ください。

なお、準備が整い次第、電子政府の総合窓口[e-Gov](<http://www.e-gov.go.jp>)の「パブリックコメント」欄に掲載するとともに、連絡先において配布します。

3 今後の予定

提出されたご意見を踏まえ、引き続きスマート・クラウド研究会において検討を進め、本年6月を目途に報告書を取りまとめる予定です。



◆所有から利用へ

クラウドプロバイダの信頼性

- 事業継続性
- 他社との依存関係
- 情報開示
- 対応の迅速さ
- セキュリティポリシー
- 保守者の権限



◆所有から利用へ

□契約、SLA(項目、保障内容とエビデンスをどうするか)

- データ、プロセスのセキュリティ(CIA)保証→現在はAのみ
- アップタイム/パフォーマンス/障害回復時間/障害通知時間等の保証
- データのバックアップ/リストア
- データの存在場所を制限できるか、リアルタイムに知れるか
- ISO27001、PCIDSS対応をどうするか
- システム運用/データ保護の方法
- SLA対応監査のための証跡保存/管理技術
- IDの運用管理、アクセスコントロール
- セキュリティ・キーの保持
- 補償規定



◆分散処理

□データの保管場所、処理がどこで行われるか不明(雲のどこか)

- データの処理、蓄積が保護制約範囲外
- データの処理、蓄積を指定範囲内に置くデータ配置技術

◆仮想化

□ハイパーバイザに対する脅威

- ハイパーバイザのセキュリティホール
- ハイパーバイザ乗っ取り(Rootkit)

□仮想マシンに対する脅威

- 古いOSが入ったVMの立ち上げ→ボット感染し踏み台に悪用
- VMの不正構成変更や設定ミス

□仮想ネットワークに対する脅威

- VM間不正通信
- 仮想ネットワークトラフィックの隠ぺい



◆ネットワークアクセス

- ネットワーク上のセキュリティ、安全性、信頼性
- NW帯域、伝送遅延
- 他クラウドとの相互接続、オンプレミスとの接続
 - ・マッシュアップ
 - ・オンプレミスとの接続

◆マルチテナントの観点

- 他の顧客の状況
- データの確実な分離
- 第三者からのアクセスに対する保護



◆ 既存システムからの移行、ベンダロックイン

◆ 既存のコンピュータシステムでのセキュリティリスク

□ 仮想マシンOSに対するセキュリティリスク

・ウィルス、なりすまし、不正利用など

□ 仮想マシンAPに対するセキュリティリスク

・XS、SQLインジェクション、DoSなど

◆ クライアントのセキュリティ

□ 端末、ネットワーク管理

□ ユーザ管理

◆ 国内外の法制度、企業のコンプライアンス対応

◆ その他